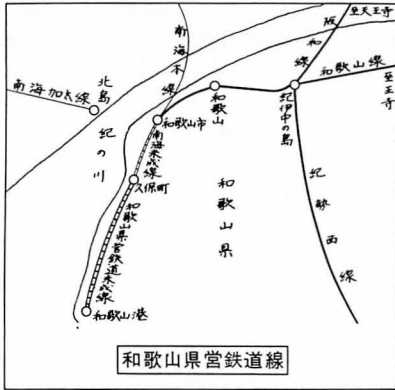


業キロ 90.8km, 関西線に属し線路等級は丙線である。

明治 33・11 五条・和歌山間紀和鉄道株式会社, 明治 29 年高田・川端間南和鉄道株式会社によって開通され, そのうち両社とも関西鉄道株式会社に合併され,

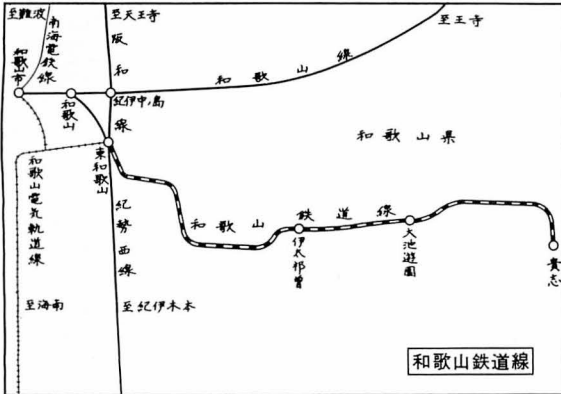
明治 40・10 鉄道国有法によってさらに国鉄に移管, 王寺・和歌山市間, 大和二見・川端間を和歌山線と呼ぶこととなったものである。なお終点和歌山市駅は南海鉄道株式会社の駅を国鉄が共同使用している。(森 協寿)



わかやまてつどう 和歌山鉄道

1 事業者の概要

名称 和歌山鉄道株式会社, 本社 和歌山市有家, 資本金



2,250 万円, おもな事業 地方鉄道・旅客自動車運送(一般乗合 13.8km, 一般貸切)。鉄道従事員 122 人, 保有車両電動客車 8・客車 1・貨車 9 両。

沿革 大正 3・7 山東輕便鉄道株式会社設立, 同 5・2 和歌山大橋・伊太郎曾間を蒸気鉄道として開業す。同 6 年大橋・中ノ島間を開業したが, 国鉄紀勢西線の開通により同 13 年営業廃止, 昭和 6・4 和歌山鉄道と社名変更, 同 8・8 伊太郎曾・貴志間を延長開業, 同 18・12 全線電化し現在に至る。

2 運輸概況

年 度	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	2,015	2,023	2,036
人 キ ロ (千)	13,931	14,421	14,535
貨物輸送トン数(千 t)	8	13	8
ト ン キ ロ (千)	103	172	100
旅客収入(千円)	36,571	40,604	42,347
貨物収入(〃)	1,736	2,324	1,600
運輸雑収(〃)	82	119	66
収入合計(〃)	38,389	43,047	44,012
営業費(〃)	38,310	43,105	45,561
営業利益(〃)	80	△ 58	△ 1,550
営業係数(%)	100	100	103

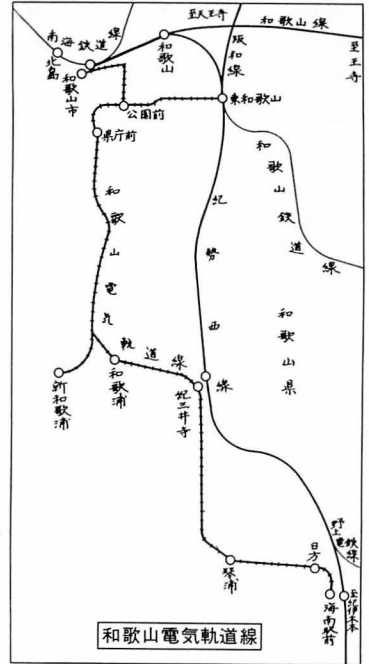
3 地方鉄道線 国鉄紀勢西線東和歌山駅に連絡, 東和歌山・貴志間 14.3km 単線, 動力電気・ガソリン, 軌間 1.067m, 旅客・貨物輸送を目的とする。大正 2・4・1 および同 15・5・10 免許, 同 5・2・15 および昭和 8・8・18 開業。(原 功)

わかやまてんききどう 和歌山電気軌道

1 事業者の概要

名称 和歌山電気軌道株式会社, 本社 和歌山市市須, 資本金 16,000 万円, おもな事業 軌道・一般乗合旅客自動車運送 206km。軌道従事員 561 人, 保有車両電動客車 46・散水車 1 両。

沿革 明治 42・1 和歌山水力電気株式会社が市役所前・和歌浦間 4.7km を創業, その後経営者は大正 11 年京阪電気鉄道, 昭和 5 年合同電気と変更し, 同 12・3 合併により東邦電力となる。同 15・10 東邦電力より現在経営の全軌道線をゆずり受け, 資本金 3 千万円で和歌山電気軌道株式会社設立, 同 19 年和歌山合同バスほか 2 会社を合併し現在に至る。



2 軌道線 和歌山県にあり, 延長 16.1km, 動力電気, 軌間 1.067m, 複線の併用軌道(一部 5km 新設軌道), 旅客運輸を目的とする。海南線 和歌山市・海南駅前(紀勢西線)間 13.4km, 出島分岐線 和歌浦口・新和歌浦間 1.1km および新町分岐線 公園前・東和歌山間 1.6km。明治 37・12・14 より大正 13・8・27 までに特許, 県庁前・和歌浦口間を明治 42・1・13 開業, 逐次延長して昭和 5・6・16 に全通。

3 沿線の観光地 和歌浦(新和歌浦・和歌浦駅), 紀三井山護国院(紀三井寺駅), 温山荘遊園(琴の浦駅)。

4 運輸概況

年 度	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	21,819	22,268	22,590
人 キ ロ (千)	93,067	95,752	97,226
旅客収入(千円)	236,309	238,773	238,537
運輸雑収(〃)	369	532	604
収入合計(〃)	236,678	239,305	239,142
営業費(〃)	227,232	228,277	225,945
営業利益(〃)	9,446	11,027	13,195
営業係数(%)	96	95	91

(嵯峨野福次)

ワキレっしゃ ワキ列車 25t または 30t 積有がい車, 15t 積有がい緩急車またはワム 90000 形式有がい車のみで編成された急行小口貨物列車。一般貨物列車の運転速度は, 貨車の構造上時速 65km 以下に抑えられているが, ボギー車である前記ワキ